

# 介護人材発掘目指せ

## 八戸で無料研修スタート

基礎知識解説

不足が深刻化している介護人材の発掘を目指し、未経験者や無資格者を対象に基礎知識や技術などを伝える無料研修会「ケアワーカーサポート研修」が10日、八戸市の「はっち」で始まった。初日は参加者10人が介護保険制度や認知症について学んだ。

「介護人材発掘育成事業」として、市から委託を受けた八戸学院大・同短大地域連携研究センターが主催。研修には20～70代の幅広い年代の市民が参加しており、計4日間の日程で行う。初日は開講式やオリエンテーションの後、計4講座を実施。市や介護事業所の

職員が講師を務めた。認知症サポーター養成講座では、認知症の人に対する対応の仕方をDVDを見ながら学び、終了後には全員がサポーターの目印となる「オレンジリング」を受け取った。同事業は介護の仕事を通してシニア世代の生きがいづくりにつなげる狙いもある。昨年10～11月、同センターが市の介護予防教室などを受講した60代以上の男女421人に行ったアンケートによると、収入を伴う仕事を70歳ごろまでしたいという人の割合が20・7%と最も多かったという。



介護についての基礎的な知識を学んだ研修＝10日、八戸市の「はっち」

事業の運営委員長で八学短大の小川あゆみ准教授は「子育てが終わった人や退職した人にも興味を持ってもらい、研修で基礎知識や技術を学んで、介護現場で働くことへのステップにな

れば」と語った。同市の60代主婦は「知識を身に付けたくて参加し

た。分かりやすく良かった」と話していた。(渡部優)